

まとめ

きっかけ

熊本にいたときは、実際に災害ボランティアに行っていたのですが、今はコロナウイルスの影響で、県外の人は現地に出向くことは難しい状況です。そこで何か熊本のために、横浜にいてもできないことがないかと考えたのがこのプロジェクトです。

喜び

横浜に来て、会った方々に熊本出身だと伝えると、意外にも多くの人に水害大丈夫だった？と声を掛けられました。遠く離れた九州の熊本のことを横浜の人も心配してくれているのだなと非常に心温まる気持ちでした。

横浜の声

このプロジェクトを企画している段階で、「実は熊本のことは気にかかっていたのだけど、どう行動していいのかわからず、何も動き出せずにいた。」という声を聞きました。

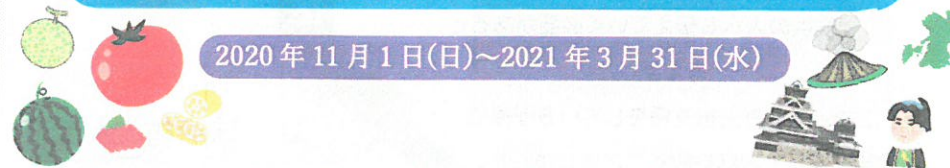
機会作り

災害から数か月たった今、熊本の状況や必要な支援を取材し、横浜の人へこのような形で情報を発信することによって、熊本のことを心配してくださっている方が動き出せる、そういう機会になればとても嬉しいです。

★インターン生の岩永フロテュース!!!! ★

熊本支援プロジェクト

2020年11月1日(日)~2021年3月31日(水)



2020年の夏に、ここアワーズでインターンシップを行っていた岩永真帆と申します。

横浜国立大学の1年生で、**熊本**出身です。

ところで皆様、令和2年7月豪雨を覚えていますか？

「横浜に来てても遠く離れた**地元**である**熊本**の支援をしたい！」

そこで私はプロジェクトを立ち上げ、水害によって多大な被害を受けた熊本のために

アワーズで**募金**活動を行います。

皆様、どうぞご協力よろしくお願い致します。

目標金額は

6万円です！

集まったお金は熊本県の熊本町災害支援チーム

ドラゴンレイルさんに送らせていただきます。

この団体さんについての詳しい情報は

次のページをご覧ください。



被害にあった坂本町の家屋

私の熊本支援プロジェクトを行うにあたって、今の熊本の状況を知ること、そしてどのような支援が求められているのかをしっかりと把握し、横浜の人へも伝えていく必要があると考えました。

そこで、現地で災害支援をしている団体に電話を通してお話を聞くことにしました。



取材団体：坂本町災害支援チームドラゴントレイル

代表：吉田諭祐さん

団体紹介

トレイルランニングをしていた「やっちろドラゴントレイル」と、自然観察グループ「豊かな球磨川をとりもどす会」が災害を機に、手を取り合って「坂本町災害支援チームドラゴントレイル」を立ち上げました。



支援内容

主な活動は、被災した家屋の泥出しや家具の運び出しです。また、ボランティアと一緒に、地元で食事をする、お風呂に入りに行くことなどで、地元にお金を落とすといった面でも地元への支援をしています。



団体への取材内容

Q.活動を始めたきっかけはなんですか？

A.目の前に困っている人や地域があるなら、自分たちが最前線に立って支援していなくてどうする！といった気持ちで災害支援チームをつくりました。

Q.地域の課題はどんなことですか？

A.熊本県八代市坂本町は超超高齢者社会！災害を機に坂本町存亡の危機がさらに迫ってきていることです。



Q.坂本町の現状はどうですか？

ほぼこれまでの期間で全家屋が、泥出しなどが終わりました。今は災害支援という段階が終わり、復興支援という形に変わったところですが、引き続き支援が必要なのは何も変わらないです。

Q.今後の意気込みをどうぞ！

A.被災地可哀そうという風ではなく、これから盛り上げていくぞといった楽しい雰囲気です。元気を出して活動を続けていきたいです！

Q.必要な支援はどんなことですか？

A.物資に関してはうまく乗り切りました。物はあふれてしまった時もあったほどでした。やはり最も助かる支援は、活動にかかる費用やその時必要なもの

を買うことに使える **お金** です。

⇒この情報を得たため、

今回募金活動を行うことにしました

Q.募金で集まったお金はどんなことに使われますか？

A.町の支援、復興のための活動資金に使われます。例えば、6万円あれば、ボランティア参加者の健康被害を軽減できる防塵マスクを20個買うことができます!!!